

プロデザイナーへの第一歩、卒業制作の日本一を競うコンペティション
MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2011 受賞作品決定
アワード史上初、大賞 2 点を選出！

10 月 26 日(水)～29 日(土)、東京国際フォーラムにて「受賞作品展」を開催

三菱化学株式会社

未来の一流デザイナーを目指す学生の優れた“卒業制作”を表彰する『MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2011』(主催:MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 実行委員会、委員長:水野 誠一、特別協賛:三菱化学株式会社、協力:株式会社三菱ケミカルホールディングス)の受賞作品が決定いたしました。

通算 11 回目となる今年度は、デザインを専攻する全国の学生から合計 296 点となる多数の意欲的な作品が寄せられました。審査員長の水野 誠一(ソシアル・プロデューサー)ほか、デザイン・アート・学術分野の最前線で活躍する第一人者(石井 幹子、榮久庵 憲司、向井 周太郎、柏木 博、河原 敏文、坂井 直樹、都築 響一、日比野 克彦、茂木 健一郎)で構成される審査員に、冨澤 龍一(株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役会長、三菱化学株式会社 取締役)を加えた総勢 11 名による厳正なる審査の結果、個性豊かでバラエティーに富んだ全 14 点の受賞作品が選出されました。さらに今年は全体的に応募作品のレベルが高く、当アワード開始以来初となる、2 点の作品が大賞に決定いたしました。

大賞を受賞したのは、森 敏郎さん(多摩美術大学卒)の『formless shape』と加藤 直樹さん(工学院大学卒)の『解体プロセスによる都市の再生産』です。

『formless shape』は、雪のように白くしなやかなピースがいくつも連なり複雑に絡み合うことで、自由自在に造形物を構成し、さらにはその形状変化を可能にさせる素材の提案です。ブロック玩具とも粘土とも異なるやわらかな造形は、年代を問わず夢中にさせる魅力を持ち、扱う人の個性によってさまざまな用途を想起させる可能性を秘めた、将来性の高い作品として高く評価されました。

『解体プロセスによる都市の再生産』は、西新宿の高層ビルを対象とし、解体するプロセスをも視野に入れるという、次代を見据えた新しいコンセプトを内包する作品です。ダイナミックな発想という点で他の作品とは一線を画しています。作り上げたモノを元の状態に戻し再利用するという考え方は、プロダクトだけでなく、建物、街、そして都市においても当てはまり、未来のデザインのあり方をシンボリックに示している作品として高く評価されました。

このほか、佳作 1 点、三菱化学賞 1 点、各審査員による審査員特別賞 10 点を選出されました。いずれも瑞々しい感性に溢れる作品です。これら受賞者には、10 月 28 日(金)、東京国際フォーラムにて実施される受賞発表会にて、賞金(大賞 100 万円、佳作・三菱化学賞各 30 万円)ほか、賞牌が授与されます。また同会場内 B1F ロビーギャラリーでは、10 月 26 日(水)から 29 日(土)まで、受賞作品を一堂に集めた受賞作品展を次の通り開催いたします。

<大賞作品>



『formless shape』



『解体プロセスによる都市の再生産』

MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2011 受賞作品展

会期: 10 月 26 日(水)～29 日(土) 11:00～19:00 (28 日(金)は 20:00 まで)
 会場: 東京国際フォーラム ガラス棟 B1F ロビーギャラリー
 住所: 東京都千代田区丸の内 3-5-1 TEL: 03-5221-9000(代表)
 入場: 無料

『MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD』は、デザイナーの育成支援とデザインの振興を目的に毎年開催している、日本で唯一デザイン全般の卒業制作を対象にしたコンペティションです。学生時代の集大成でありプロへの第一歩でもある“卒業制作”の表彰を通じて、次世代を担う逸材を発掘するとともに、デザイナーの卵たちの新鮮な感性と可能性を世に広める機会の創出に努めています。

【本件に関するお問い合わせ先】
 三菱化学株式会社 広報室
 TEL: 03-6414-3730

＜受賞結果一覧＞

賞(賞典)	作品名	作者	出身校
大賞 (賞牌と賞金 100 万円)	formless shape	森 敏郎 (モリ トシロウ)	多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科
	解体プロセスによる都市の 再生産	加藤 直樹 (カトウ ナオキ)	工学院大学 工学部 第2部 建築学科
佳作 (賞牌と賞金 30 万円)	ROSE BREEDER	酒井 恵理 (サカイ エリ)	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
三菱化学賞 (賞牌と賞金 30 万円)	TRANSPORTABLE EMERGENCY ROOM	國本 築永 (クニモト チナ)	名古屋大学 工学部 社会環境工学科
審査員特別賞			
水野誠一賞 (賞牌)	rakugo-gram	渡邊 朗子 (ワタナベ アキコ)	武蔵野美術大学 造形学部通信教育課程 デザイン情報学科
石井幹子賞 (賞牌)	o・p・portunity -きっかけのか たち-	富田 美智子 (トミタ ミチコ)	東京藝術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻
榮久庵憲司賞 (賞牌)	PLUTO	石川 恵 (イシカワ メグミ)	武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科
向井周太郎賞 (賞牌)	漠し光～視えない光の記述～	江南 仁美 (エナミ ヒトミ)	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
柏木博賞 (賞牌)	CUT PULL INSIDE OUT	廣安 恵 (ヒロヤス メグミ)	多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科
河原敏文賞 (賞牌)	LIVE	高森 奈央子 (タカモリ ナオコ)	日本大学 芸術学部 デザイン学科
坂井直樹賞 (賞牌)	Big book	藤本 真央 (フジモト マオ)	多摩美術大学 美術学部 グラフィックデザイン学科
都築響一賞 (賞牌)	ambient	赤羽 俊平 (アカハネ シュンペイ)	首都大学東京 システムデザイン学部 システムデザイン学科
日比野克彦賞 (賞牌)	step A style	石川 隆一 (イシカワ リュウイチ)	ICS カレッジオブアーツ インテリアマイスタートレイニー科
茂木健一郎賞 (賞牌)	tale.trip.tale. ～子供が入れ る仕掛け絵本～	田中 亜季 (タナカ アキ)	金沢美術工芸大学 美術工芸学部 デザイン科

作品の詳細については、資料2:受賞作品一覧、

または当アワードウェブサイト(www.m-kagaku.co.jp/mcjda/)をご参照ください。

＜受賞作品一覧＞

【大賞】

作 者：森 敏郎（多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科）

作 品 名：formless shape

作品概要：初めての体験。スツール、縫いぐるみ、パーテーションなどを形作っているのは、小さな同じ形状のピースです。雪のようなまとまりを作っているその白い塊は、小さなピースどうしが互いに引っかかりあうことで結びついています。この引っかかりあう力は他のピースをつり下げる力にもなります。床に広がったピースの一端を持ち上げることで、次々に近くのピースと連なりながら、膜状に持ち上げることもできます。

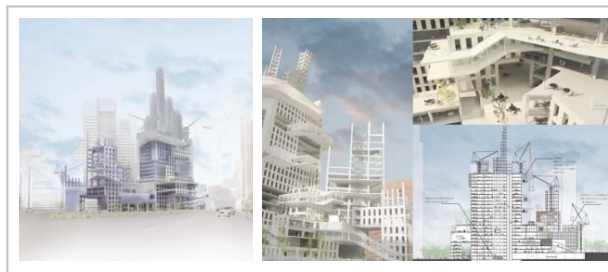


【大賞】

作 者：加藤 直樹（工学院大学 工学部 第2部 建築学科）

作 品 名：解体プロセスによる都市の再生産

作品概要：70年代超高層ビルは文明社会の象徴であり、都市を創る役割を担っていた。しかし現在超高層ビルは、経済原理にのみ動かされ安易に乱立している。この建築は変化する社会の流れに合わせ、ゆっくりと解体と構築を行う。工事は終わることなく続き、人々は変化していく建築のなかで流動的に活動を行う。解体部材による都市の再生産を提案する。

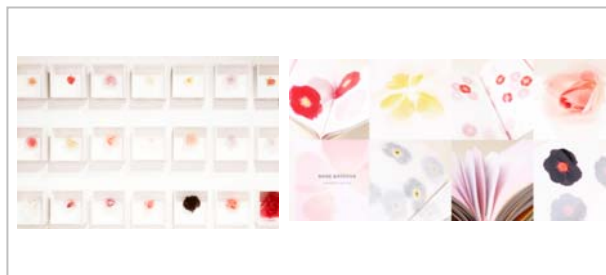


【佳作】

作 者：酒井 恵理（武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科）

作 品 名：ROSE BREEDER

作品概要：今日ある2万種類の薔薇はわずか9種の原種から作出された。9種から2万種まで発展したのは、薔薇が最も人に愛されてきた植物である証だ。本研究は、理想とする薔薇が全く異なる3人の育種家が作出した薔薇を通じ、薔薇の多種多様性を示す事を目的とした。3人の薔薇を通じ、数世紀にわたり薔薇を改良した育種家達の、強いこだわりと愛が今日の薔薇を作出した事、人々の想いにより新たな薔薇が創られる面白さが伝わる本を制作した。

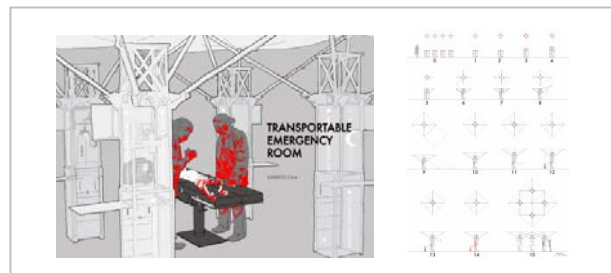


【三菱化学賞】

作 者：國本 築永（名古屋大学 工学部 社会環境工学科）

作 品 名：TRANSPORTABLE EMERGENCY ROOM

作品概要：地球温暖化の影響などで災害をもたらす事象は年々増加傾向にあると言われ、世界中で毎年多くの人々が死傷しています。地球規模の課題である災害ですが、その被害は単に災害の規模だけで決まるのではなく、国や地域が持つ対応能力との掛け合わせにより大きく左右されているのが現状です。本提案は、世界で起こる緊急事態、大規模災害発生に備え、世界各国への出動を可能とした緊急救命救急ユニットであり、医療の平等を目指すものです。



【水野誠一賞】

作 者: 渡邊 朗子 (武蔵野美術大学 造形学部通信教育課程 デザイン情報学科)

作 品 名: rakugo-gram

作品概要: 落語は、声と僅かな仕草のみの話芸であるにもかかわらず、聞く人の頭の中に豊かなビジュアルイメージを想起させ、無限に広がる。落語の持つその魅力を伝えるために「本」というメディアを選んだ。デジタルメディアに溢れる中、存在の危機にさらされている本だが、私は落語に本の新たな可能性を見た。この作品は、本を構成する文字、色、頁を捲ることによる時空間の経緯、紙の質感といった要素で落語の世界を記述する試みである。



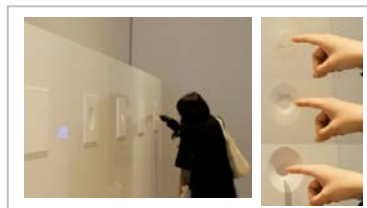
【石井幹子賞】

作 者: 富田 美智子 (東京藝術大学大学院 美術研究科 デザイン専攻)

作 品 名: o・p・portunity きっかけのかたち-

作品概要: これは「スイッチ」の“感情値”のかたちである。感情値とは、工業製品が人間に見せる生命体的な表情である。

「o・p・portunity」は、人間が製品に触れる時の接触面であるスイッチに動物的な仕草を掛け合わせ、感情値のかたちを表現した。例えば、突起しているスイッチを押そうとすると、亀の頭のようにそれを引っ込めるのである。このように、人がそれに触れようとする、思わず笑ってしまうような反応を返してくる。



【榮久庵憲司賞】

作 者: 石川 恵 (武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科)

作 品 名: PLUTO

作品概要: PLUTO は障害者用スポーツ車椅子である。近年、自転車の分野において、競技用であったロードバイクは日常のスポーツ用として使われ、その機動力とデザイン性の高さは多くの人気を得ている。一方、車椅子の分野においてはスポーツを楽しむための車種がないのが現状だ。日本の地形と使用者のトルクに合わせた独自の設計により、スポーツの楽しさと、車椅子でしか成し得ない、スポーツ用車椅子の新しいスタイルを提案する。



【向井周太郎賞】

作 者: 江南 仁美 (武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科)

作 品 名: 漢し光～視えない光の記述～

作品概要: 人間は光を直接見ることができません。わたしたちの目に語りかけてくる光は自然に語りかけてくる光と異なります。そこで、わたしは昔から光を視覚化しようとしてきた絵画や写真の世界から美しい光の表現を調査し、知覚できない光の現象、繊細な光と陰の戯れの美しさを最も表現できる複写技法の青焼きを使って光の視覚化をしました。光を照らすためのものではなく、光そのものの美しさに気づき、共感してもらえると幸いです。



【柏木博賞】

作 者: 廣安 恵 (多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科)

作 品 名: CUT PULL INSIDE OUT

作品概要: 人を支持体とする事で表層が変化する織地。織による構造が表層を作り、着る各人の体型の起伏や動作に沿って伸びる事により、表層の色と柄が多様に変化する。服地としての織の新しい可能性を追求し、人と服地が相互に関わり合い、両者の間にゆるぎない必然性が生まれる事を狙った作品。今後ファッションにおいて、テキスタイルが服の主軸となり、素材の特性や織の構造美がより着目されるようになる事を願いながら作った。

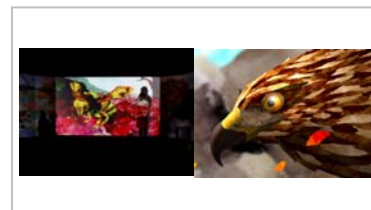


【河原敏文賞】

作 者: 高森 奈央子 (日本大学 芸術学部 デザイン学科)

作 品 名: LIVE

作品概要: 日々考えていたこと。それは命の捉え方。一つ一つの命の価値や大きさなど量ることはできないのに、人は基準を作り上げようとする。故に偏見が生まれ、目に見えている範囲で物事を判断してしまうことも少なくない。そのことから、ひとつひとつのもの、こと、命に対する個人の意識を再認識、再構築する契機となるようなアニメーション、イラストレーションパネル、空間を作成した。“図鑑”を見る側との接点とし、自然へと誘う。

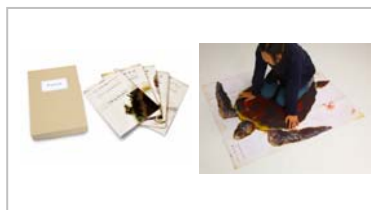


【坂井直樹賞】

作 者: 藤本 真央 (多摩美術大学 美術学部 グラフィックデザイン学科)

作 品 名: Big book

作品概要: 「Big book」はその名の通り、大きな本です。一見タブロイドサイズのこの本は、シート状に大きく広がり、そこにはその本の中に存在するものたちが、そのものの大きさで描かれています。おおきなかぶ、うらしま太郎などの 5 つのお話の中から、それぞれに特徴的なモチーフが現れ、自分と比べながら、その世界観を体験できます。本を読んでいる本人、またそのまわりにいる第三者にも楽しめる本になっています。



【都築響一賞】

作 者: 赤羽 俊平 (首都大学東京 システムデザイン学部 システムデザイン学科)

作 品 名: ambient

作品概要: ambientはこれまでのどのイヤホンとも違う、全く新しい聴き心地のイヤホンです。穴の開いたカタチなので、音楽を聴きながらも周りの音をきくことができます。さらにイヤホンが耳を密閉しないので、従来のイヤホンと比較して鼓膜にかかるストレスを軽減できます。リラックスして音楽を聴くことが可能となります。リング状のデザインは、プロトタイプ制作・実験を通じ内部構造をデザインすることで実現しました。



【日比野克彦賞】

作 者: 石川 隆一 (ICS カレッジオブアーツ インテリアマイスタートレイニー科)

作 品 名: step A style

作品概要: 今現在建築や家具に携わる作り手の職人さんたちの施工したものや、作ったものは何かしらの仲介を通し、お客さんの手に渡るので、職人さんの作業風景を直接見る機会がほとんどないのが事実です。職人さんの技術や材料を直接その目で見ることによって、「もの」の見方や価値、ありがたさが解るのではないかと。そこで、「屋台」の要領を用い、工房を公園や広場に持っていき、作業風景をパフォーマンス化する。移動式の工房の提案です。

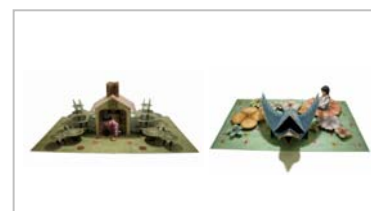


【茂木健一郎賞】

作 者: 田中 亜季 (金沢美術工芸大学 美術工芸学部 デザイン科)

作 品 名: tale.trip.tale. ～子供が入れる仕掛け絵本～

作品概要: 「まるで絵本の中に入りたいだ...！」人は非現実的な夢見心地の世界を体験するとこのような言葉の表現をします。しかし、実際に絵本の中を体験したことがある人はいるのでしょうか。元来、絵本を読む対象である子供が実際に入ることが出来る仕掛け絵本を提案します。絵本に入った子供が主人公になり、この絵本は完成します。様々な物語(tale)のシーンの旅(trip)することが出来る絵本です。ヘンゼルやグレーテル、親指姫になりきって絵本の中を冒険してほしいです。



＜各審査員総評＞

水野 誠一(ソーシャル・プロデューサー)

さて今回は、東日本大震災前後の募集にもかかわらず、多くの優秀な応募作品が寄せられました。みなさまのご協力に深く感謝申し上げます。しかも応募作品がバラエティに富み、とりわけ大賞については候補作品二点を審査員がどちらにも絞りきれず、様々な議論の末、受賞作品二点ということになりました。他の各賞についても大変に熱い議論が繰り広げられましたが、全体に、時代への問題意識が高い作品が多かった点を大いに評価出来たと思えました。

石井 幹子(照明デザイナー)

数ある卒業制作から選ばれた受賞作は、回を重ねるたびに、幅広いものになって来たように思います。審査員全員によって選ばれた大賞もさることながら、審査員各人が選んだ審査員特別賞のバラエティーが多彩なことも、このアワードの特徴となっています。次年度の審査が楽しみです。

榮久庵 憲司(インダストリアルデザイナー)

今回の作品全体を通していえることは、作品の目的がはっきりとしていることです。残念ながら幅の広い作品は殆ど見かけません。これも時代のひとつの表現なのでしょう。又は教育者の哲学がそうさせているのか。目的が明確なのはアプローチがし易く、目的達成には不安定感はありませんが、学生の卒業制作にはもう一入の夢があってもよいのではないのでしょうか。難しい課題ですが是非挑戦すべきです。先生方の指導要領が気になります。

向井 周太郎(武蔵野美術大学名誉教授、デザイン研究者)

喜ばしいことに、本年度は、近年停滞気味に見えたプロダクト部門に応募作品が多く、また全体に、多くの大作・力作が見られました。二つの大賞となった、多様な使用の可能性を潜在させた化学繊維の雪片のような小さな同一形状のピースの集積「formless shape」という形態原理の提案と、解体と構築を循環する「解体プロセスによる都市の再生産」という都市建設の構想原理の提案は、双方とも、きわめて革新的です。三菱化学賞となった「TRANSPORTABLE EMERGENCY ROOM」は世界で起こる大規模災害発生に備えた緊急救命救急ユニット・システムの提案で、3.11 を予知したかのような先覚的な優れたソーシャル・デザインです。佳作の作品で代表されるような造形的に優れた作品の新しさもまた好ましく、一段と革新的で独創的な提案を期待したいと思います。

柏木 博(武蔵野美術大学教授、美術評論家)

ことしは、森敏郎さんの「formless shape」と加藤直樹さんの「解体プロセスによる都市の再生産」とふたつの大賞が出ました。森さんのデザインは、これまでのユニット玩具の概念を変えるものでした。そして森さんのデザインは、都市の巨大建築の解体・廃棄の持つ問題を問いかけるものでした。どちらも、新鮮でオリジナリティに富むデザインです。これらの大賞にも代表されるように、ことしは全体にレベルが圧倒的に高く、安心して審査をすることができました。

河原 敏文(プロデューサー、ディレクター、CG アーティスト)

今回は、全体の作品のクオリティが非常に高かったと思います。さらには、学生らしいとんでもない作品もいくつかありました。いつも若者は実現性を無視してでも審査員をびっくりさせるような提案をしてほしいと言いつけてきたので、うれしい限りです。

坂井 直樹(慶應義塾大学 SFC 教授、コンセプター)

今回は「formless shape」というピース素材と「解体プロセスによる都市の再生産」の二作品が大賞という異例の結果になったほど力作が多く、選定に議論が飛び交った。また緊急救命救急ユニット「TRANSPORTABLE EMERGENCY ROOM」が三菱化学賞を受賞したことは、来年の MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD が 3.11 以降の課題に影響を受けたイメージンシー・デザイン作品が多く寄せられることが予測される。

都築 晋一(編集者)

3月11日の大震災を契機に、デザインのあり方についてもいちど考えてみたひとは、僕を含めたくさんいるだろう。毎年「課題」のように障害者向けや、高齢者、幼児のための作品がたくさん提出されるが、来年からはもっと切実なリアリティを持ったデザインが、登場してくるにちがいない。それが楽しみだ。

日比野 克彦(アーティスト)

大賞の方向性が前年度までとは少し変わってきていると思います。いい意味で「もの」に捉われずに発想を重視した作品が選ばれています。これはここ数年、社会にどのように機能していくのかということを実践的に注視したのから、何かそこにありそう、現実的にはあり得るのか？どう使うのか？というよりも、逆に今の想像力では十分に使いきれない、処理しきれないところにこそ魅力を感じるという作品に、気持ちが動いたというのが今年の特徴です。私たちは絶えず変動する社会の中で生活しています。そのような気持ちの変化を敏感に受け止めてデザインをしていくことがいいものになっていくのでしょうか。

茂木 健一郎(脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー)

どんな問題にも解決がある。そこで大切なのは、問題を見つけることだ。3月11日以降、課題にソリューションを与えるという「デザイン力」に対する期待は高まっている。製作期間は震災前だったが、いくつかの作品が、現代社会が直面している課題に正面から向き合っていることは、心強いことだった。何ごとも、諦めてはいけな。もっとよい未来は、必ず来るはずだ。私たちがそれを強く望むならば。

MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2011 実施概要

主 催:	MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 実行委員会 委員長:水野 誠一/委員:石井 幹子、榮久庵 憲司、向井 周太郎、富澤 龍一		
特別協賛:	三菱化学株式会社		
協 力:	株式会社三菱ケミカルホールディングス		
対象分野:	プロダクト、グラフィック、ファッション、マルチメディア、パッケージ、デザイン研究などのデザイン全般		
応募資格:	高等学校卒業後、日本で2年制以上のデザイン関連学校で修学し、 2011年3月に卒業した学生の卒業制作および修士修了制作。また、高等専門学校卒業生も応募可能。		
応募方法:	「応募フォーム」によるオンライン応募		
応募期間:	2011年1月25日-2011年5月31日		
審査基準:	独創性、デザイン性、機能性、実現性・経済性、社会への貢献		
審 査 員:	審査員長	水野 誠一	(ソーシャル・プロデューサー)
	審査員	石井 幹子	(照明デザイナー)
		榮久庵 憲司	(インダストリアルデザイナー)
		向井 周太郎	(武蔵野美術大学名誉教授、デザイン研究者)
		柏木 博	(武蔵野美術大学教授、美術評論家)
		河原 敏文	(プロデューサー、ディレクター、CGアーティスト)
		坂井 直樹	(慶應義塾大学 SFC 教授、コンセプター)
		都築 響一	(編集者)
		日比野 克彦	(アーティスト)
		茂木 健一郎	(脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー)
	特別審査員	富澤 龍一	(株式会社三菱ケミカルホールディングス 取締役会長、 三菱化学株式会社 取締役)
審査方法:	上記審査員による一次審査(書類)、最終審査(プレゼンテーションパネルおよび実物または模型) により決定。		
賞 典:	大賞	(1点)	賞牌と賞金 100万円
	佳作	(2点)	賞牌と賞金 30万円
	三菱化学賞	(1点)	賞牌と賞金 30万円
	審査員特別賞	(10点)	賞牌
	※2011年度は大賞2点、佳作1点の選出となりました。		

次回は、2012年1月より作品募集開始予定です。